

# 芸能



カメラは袴田さんの現況を淡々と追っ

## 袴田 巖 夢の間の世の中

GOO度★★★★☆

映画  
大好き

### 待ち続けた人の「実感」

「巖が生きていてくれてよかった」と、姉の秀子さんがつぶやく。48年ぶりに釈放された死刑囚の弟を待ち続けた人の、当たり前といえは当たり前前の述懐が、耳を離れない。

1966年に起きた一家4人殺害事件の罪に問われた元プロボクサー、袴田巖さんの今を追ったドキュメンタリー。2014年の釈放時、静岡地裁が「これ以上、拘置を続けるのは耐え

き上がる。だが、「巖が生きていてくれてよかった」という言葉が伝えているのは、怒りではない。冤罪かどうかさえも超越し、誰もが自分の近しい人と重ねて共感できるような、一人の人間の命の手触り、かけがえのなさだ。

〈公開中〉

金聖雄監督作品。(道面雅量)

「生きていてくれてよかった」。この実感を断ち切る死刑とは、たとえそれが「人殺し」の報いであつたとしても、やはり「人殺し」なのだと思える。

死刑の恐怖と長期の拘禁は、袴田さんの心身を深くむしばんだ。回復傾向も見せてはいるが、室内をぐるぐる歩き続け、「全能の神」を自称する。冤罪であることを前提にその姿を目の当たりにする時、怒りの感情が湧

「生きていてくれてよかった」と、姉の秀子さんがつぶやく。48年ぶりに釈放された死刑囚の弟を待ち続けた人の、当たり前といえは当たり前前の述懐が、耳を離れない。

1966年に起きた一家4人殺害事件の罪に問われた元プロボクサー、袴田巖さんの今を追ったドキュメンタリー。2014年の釈放時、静岡地裁が「これ以上、拘置を続けるのは耐え